

公益財団法人 JKA 競輪公益資金による補助金事業の完了報告

公益財団法人 JKA 様より競輪公益資金による補助金を受配し、令和 2 年 12 月 4 日福祉車両を整備しました。

(1) 福祉車両

シエンタ 7 人乗り（特別装備なし）

補助金額 1,250,000 円

(2) 事業の目的

親と一緒に生活することができない、又は、一緒に生活することによりマイナスの影響が起こることが考えられる青少年達の多くは自己肯定感が低く、上手にコミュニケーションが図れないため社会に出ても孤立してしまうことが多い。そのような青少年にとって自己肯定感を高め、人間関係の構築のためのコミュニケーション能力を向上させることが必要である。

そのため福祉車両の整備により野外活動の実施、社会活動参加、コミュニケーションを図る場への参加により、青少年の経験値をサポートし、情操教育を実施する。

野外活動においては友情を育み、思いやりや皆の力を合わせることで成し遂げられることがあることやチームワークの大切さを学んでもらう。社会活動参加により、地域住民と交流を図り、地域での居場所作りと住民との関係を構築し、地域の大切さを認識してもらう。またコミュニケーションを図る場に参加することにより、適切なコミュニケーションの取り方を学び、苦手としている人間関係の能力を向上させる。

(3) 実施内容

福祉車両の整備を行い、野外活動の実施、社会活動参加、コミュニケーションを図る場への参加をし、青少年の経験値をサポートし、情操教育の向上に役立てることとしていたが、現在はコロナ禍により人と接する活動の自粛を余儀なくされている為上記活動は難しい状況である。しかし、入所青少年達にとって「この車でどこかに出かけられる」という精神的なゆとりを与えるとともに楽しく明るい希望をもたらす存在となっている。



また、現在は近隣にしか行くことができてないが、スーパー、ホームセンター等への道中において青少年同士がコミュニケーションを図る良い機会となっており、精神面の安定を図る大きなツールと感じている。

(4) 予想される事業の実施効果

コロナ禍の終息後には、野外活動の実施、社会活動参加、コミュニケーションを図る場への参加を実施する。

本事業後に予想される効果については、チームワークの大切さを学べること、地域の一員であるという意識を育てることができること、他者との適切な人間関係の構築ができるようになること、である。このような経験ができることは今後の人生の糧となると考えている。